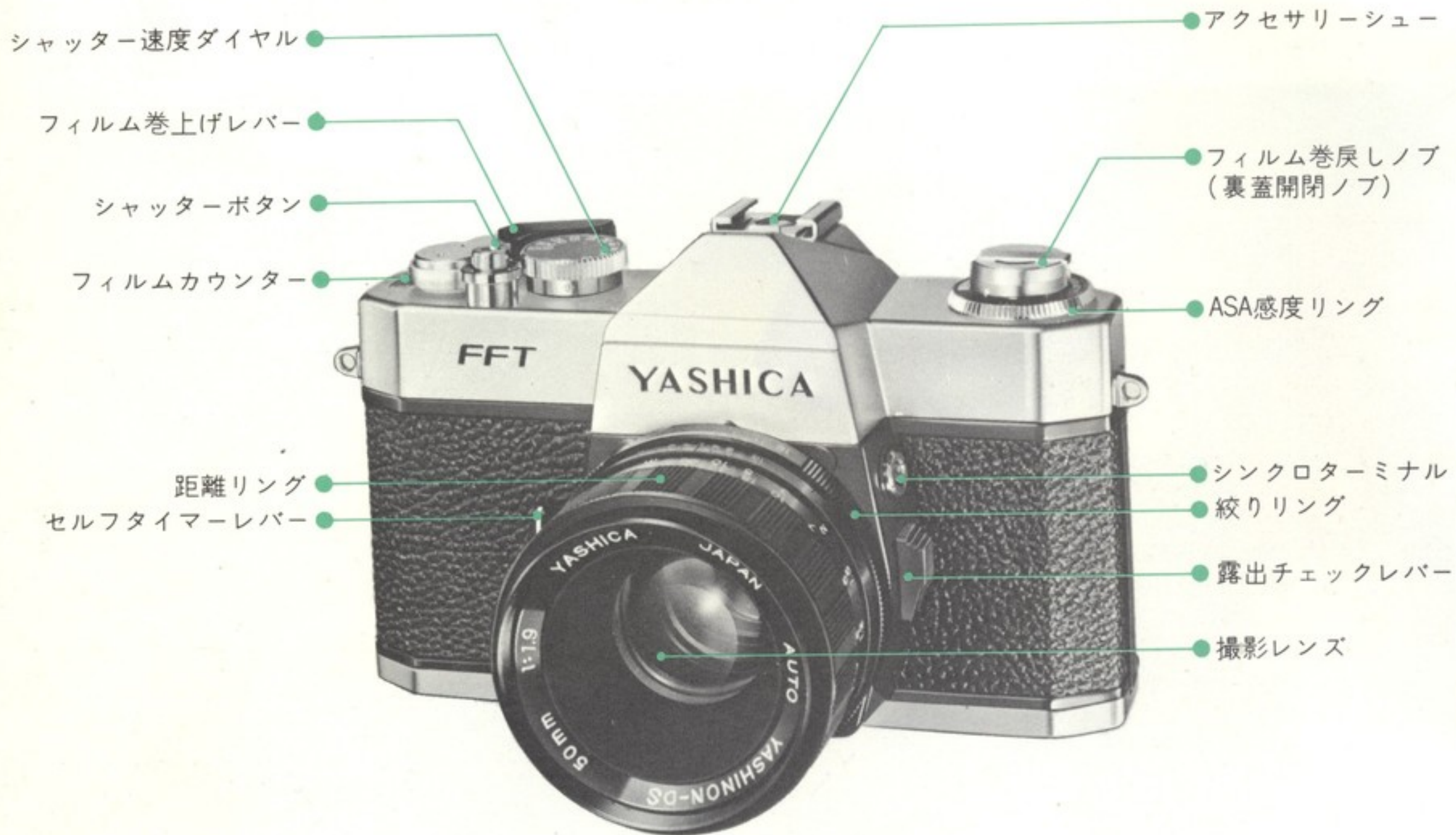


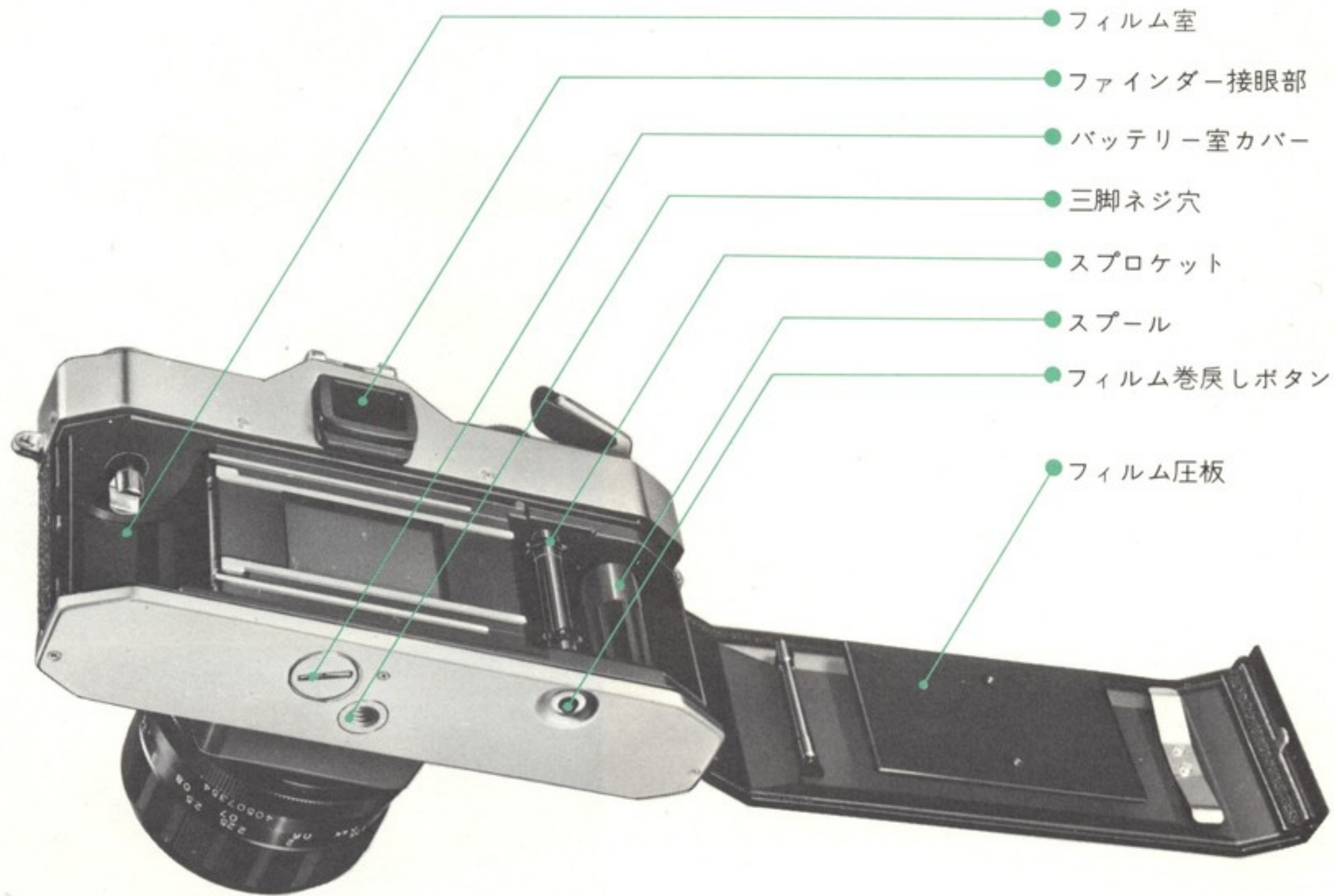
YASHICA FFT

ヤシカFFTの使い方



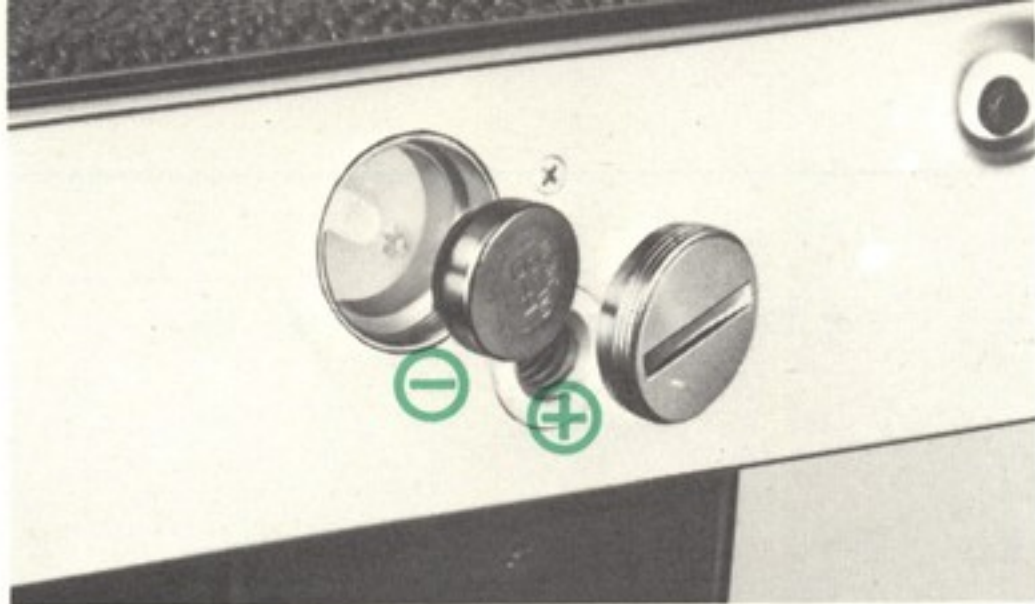
各部の名称



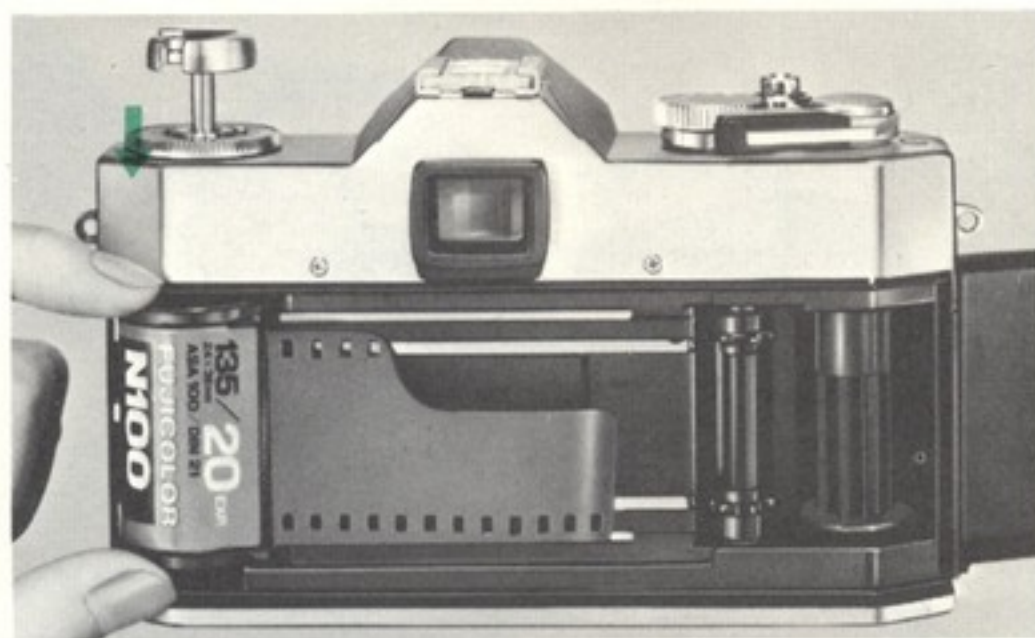


撮影の基本操作

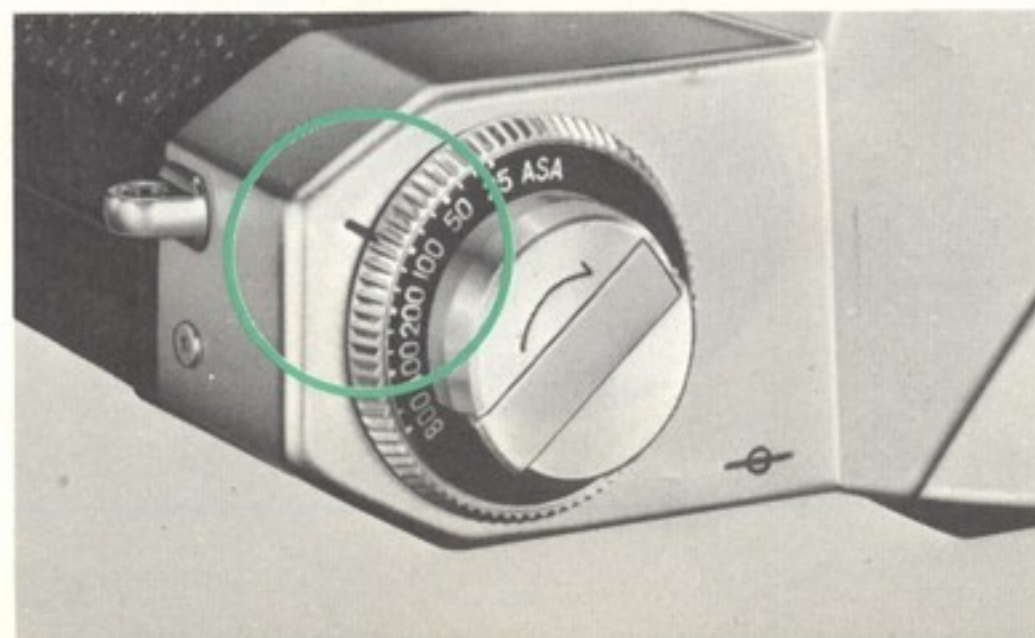
1 電池を入れます (6頁参照)

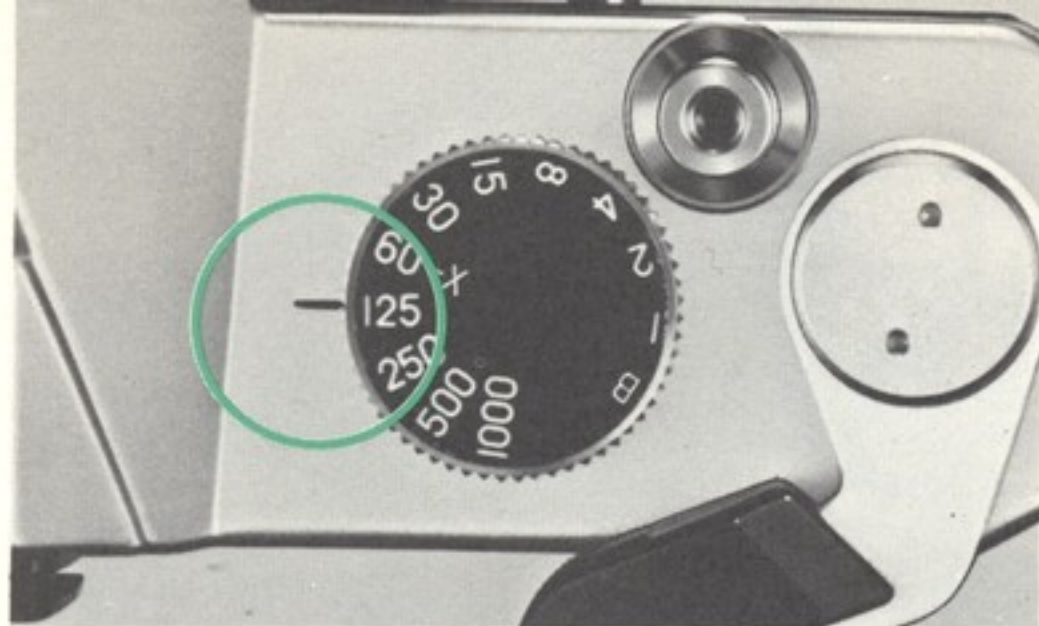


2 裏蓋をあけてフィルムを入れます
(7頁参照)

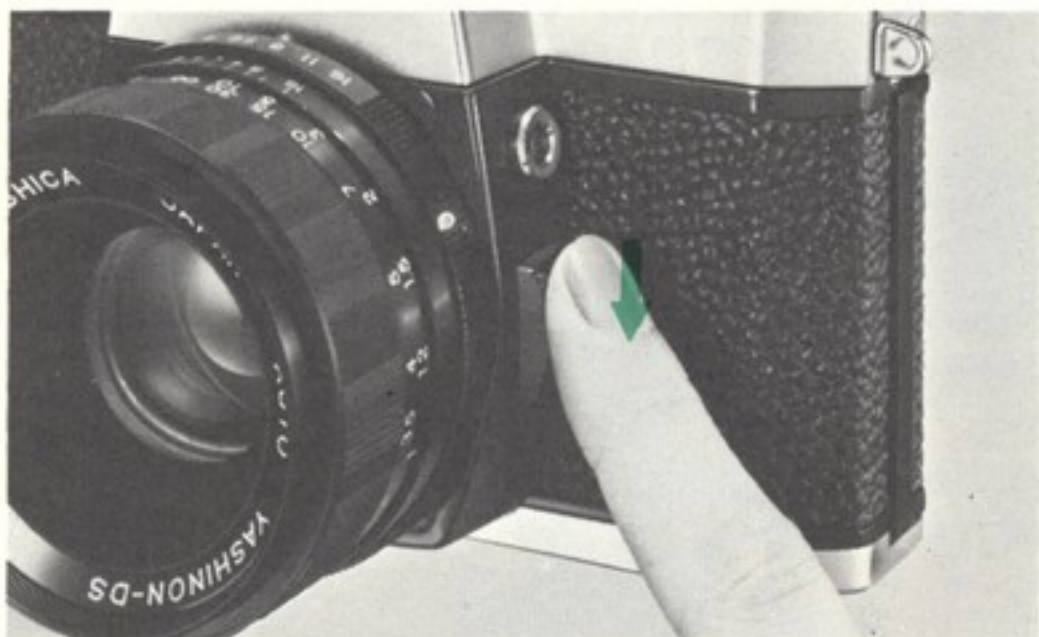


3 フィルムのASA感度を合わせます
(10頁参照)

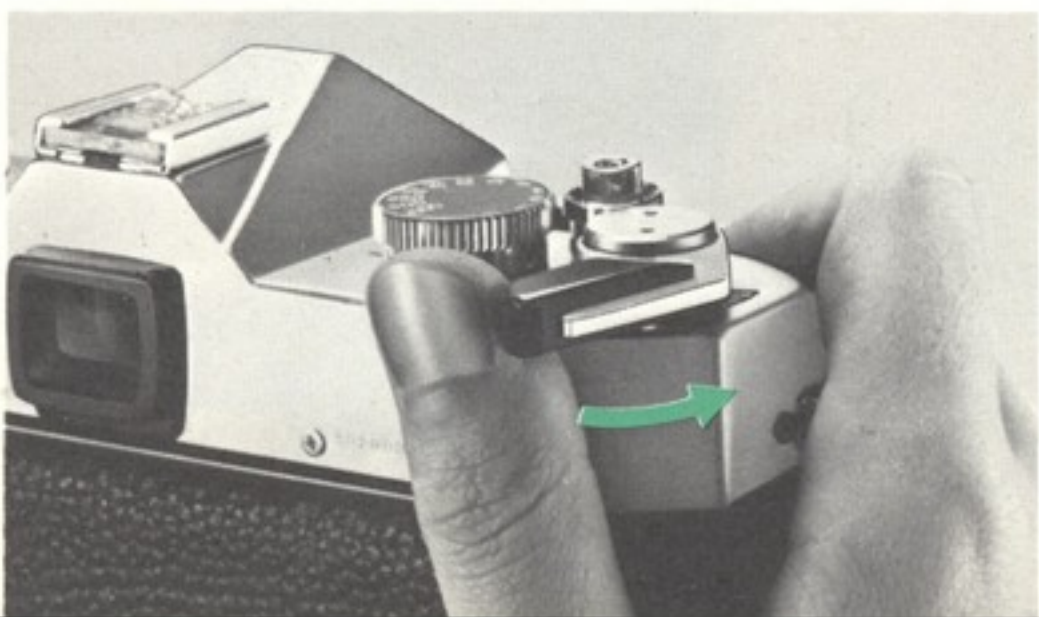




4 シャッター速度（絞り）を合わせます
（13頁参照）

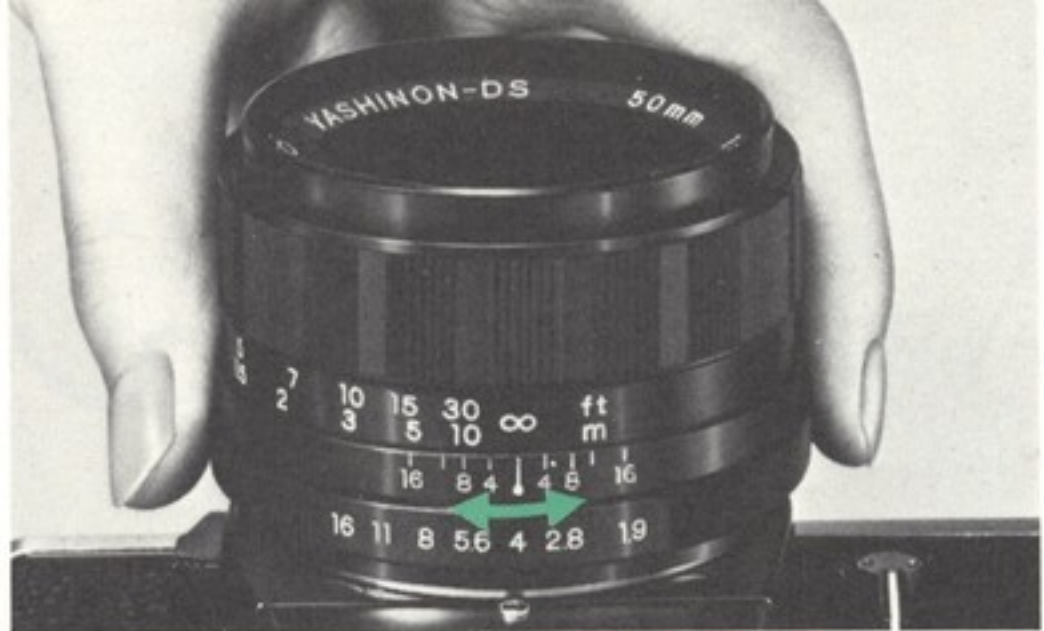


5 露出チェックレバーを押し下げます
（14頁参照）



6 フィルムを巻上げます（9頁参照）

7 絞りリング (シャッター速度ダイヤル)
を回しながら…………… (15頁参照)



8 ファインダー内の指針を
中央に合わせます
(15頁参照)

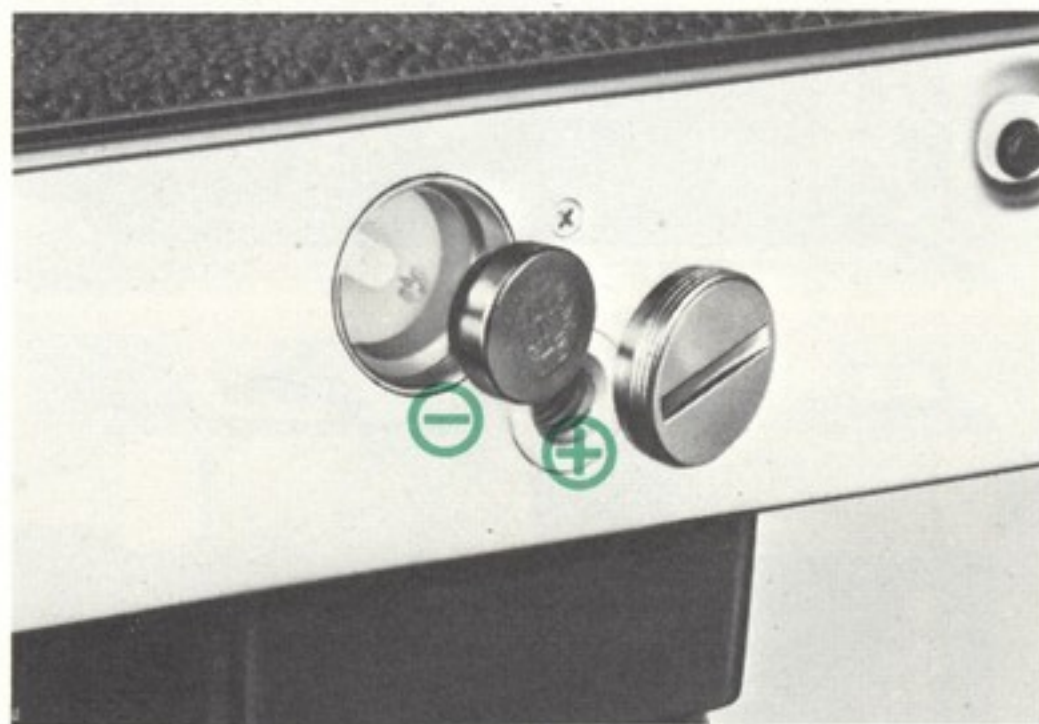
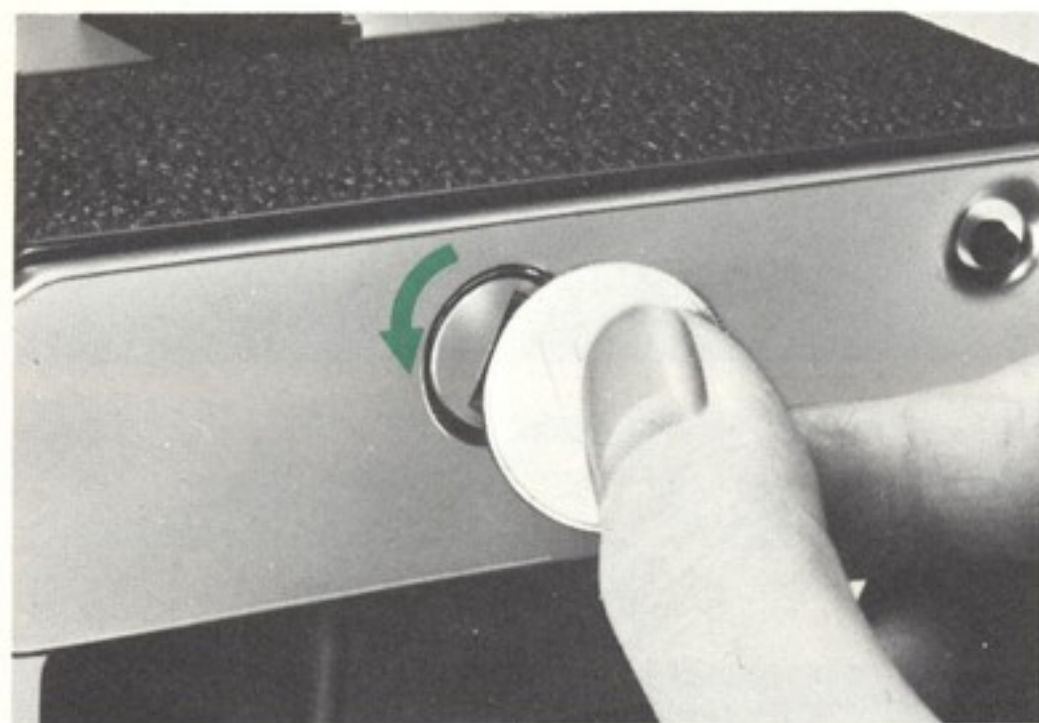


9 ピントを合わせシャッターを切ります
(12頁参照)

露出チェックレバーを押上げて、ピント合わせをしてください。



電池の入れ方



〈使用電池〉

水銀電池1.3Vは下記の電池を使用してください。

国内 ナショナルH-C (JIS記号H-C)

海外 エバレディEP-675R マロリーRM-675R

1 硬貨をつかって、カメラ底部のバッテリー室カバーを矢印方向に回してはずします。

2 水銀電池を入れます。図解どおり⊕と⊖を正しく入れてください。

間違えるとファインダー内の指針は動きません。

3 入れ終わったら、バッテリー室カバーをしっかりと締めます。

〈電池の消耗をチェックするには〉

水銀電池は、普通にお使いいただいで約1年半持ちますが、明るい場所でファインダー内の指針が動かなくなったら新しい電池と取りかえてください。(28頁参照)

フィルムの入れ方

- 1** フィルム巻戻しノブをかるく引き上げ、さらに強く持ち上げると裏蓋が開きます。

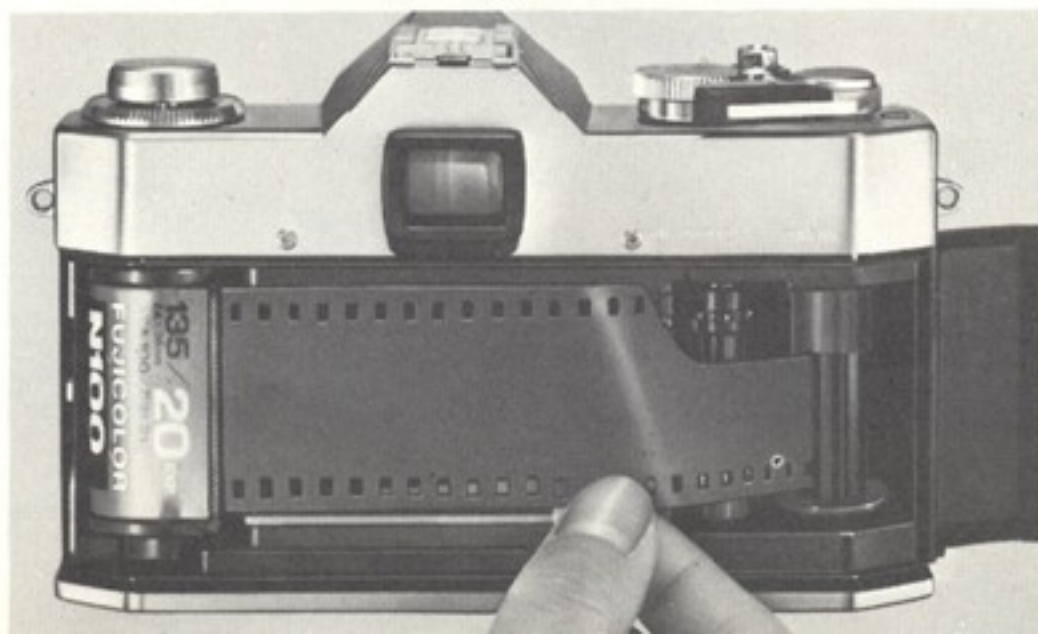
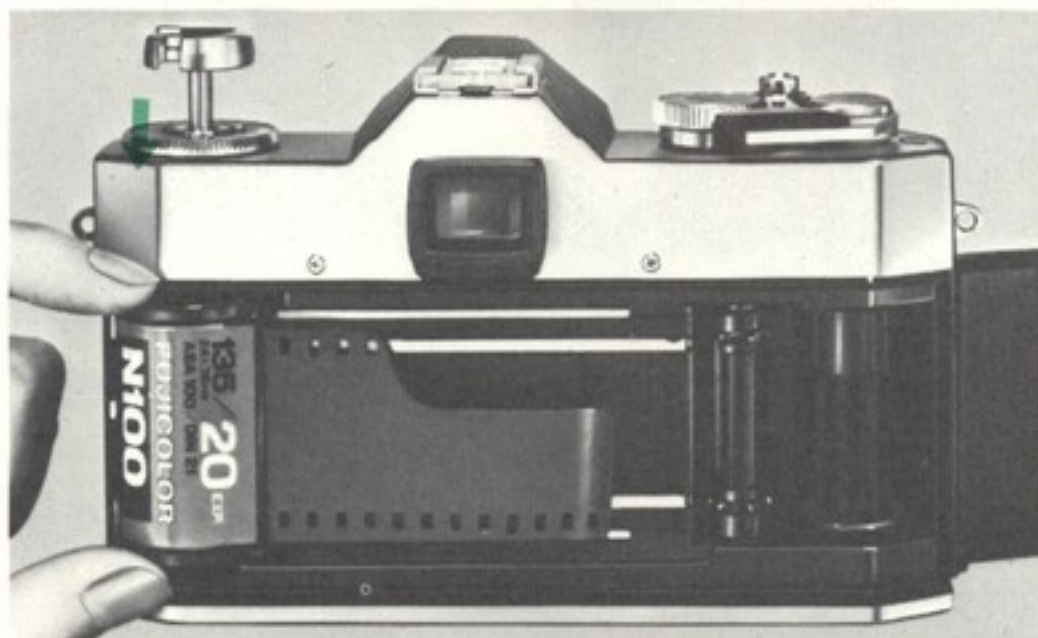
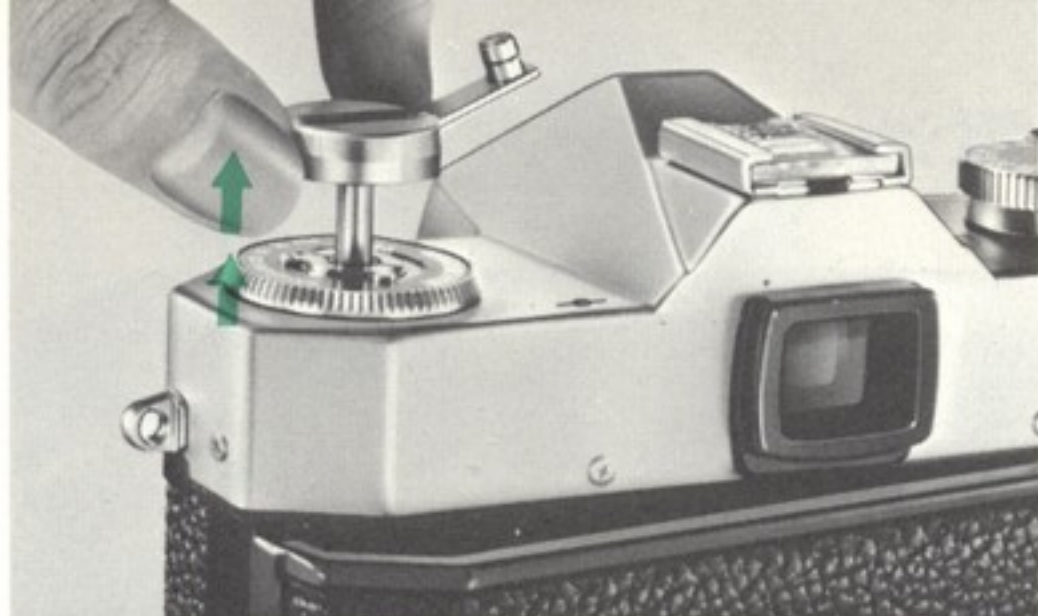
裏蓋が開くと、同時にフィルムカウンターは自動的に復元しSに戻ります。

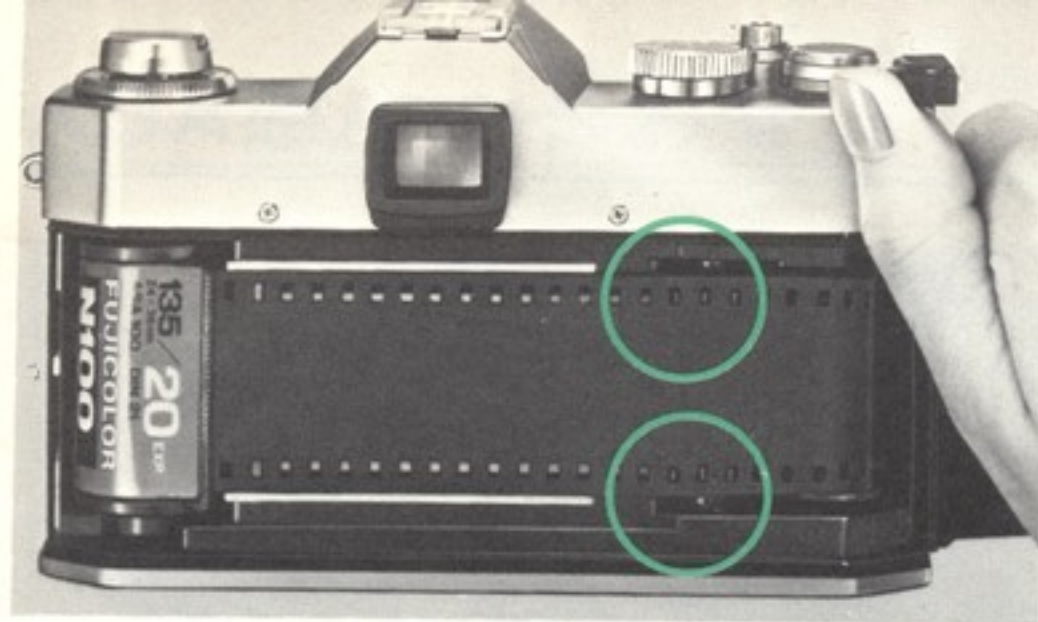
- 2** フィルム室にフィルムを入れ、巻戻しノブを元の位置に押し下げます。

フィルムは、一般のパトローネ入り35ミリフィルム（12・20・36枚撮り）を使います。

- 3** フィルムの先端を、巻取りスプールのみぞに十分に差し込んでください。

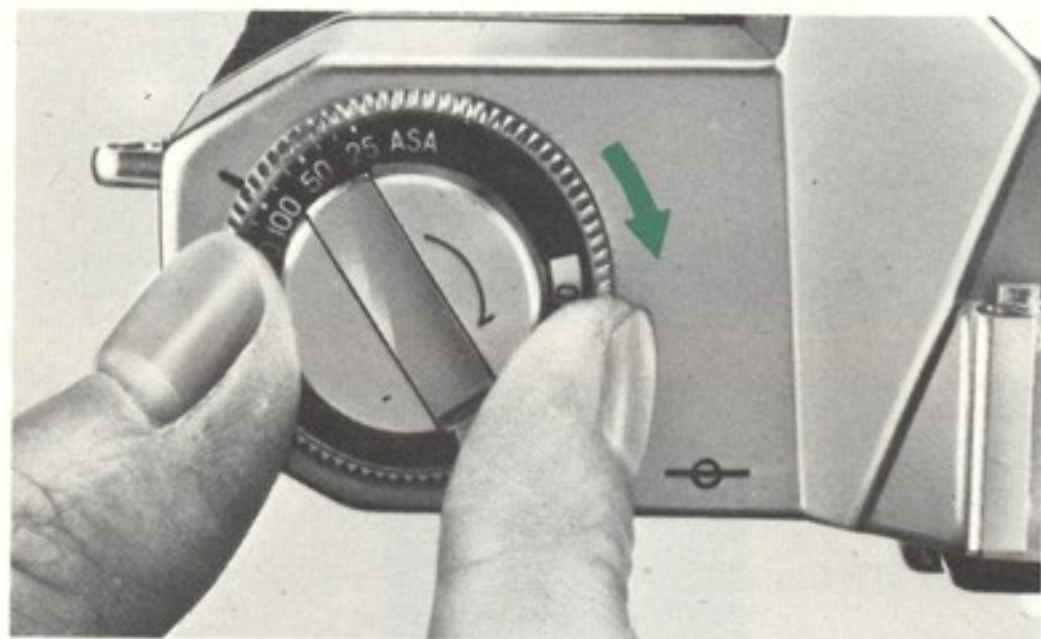
どのみぞに差し込んでかまいません。



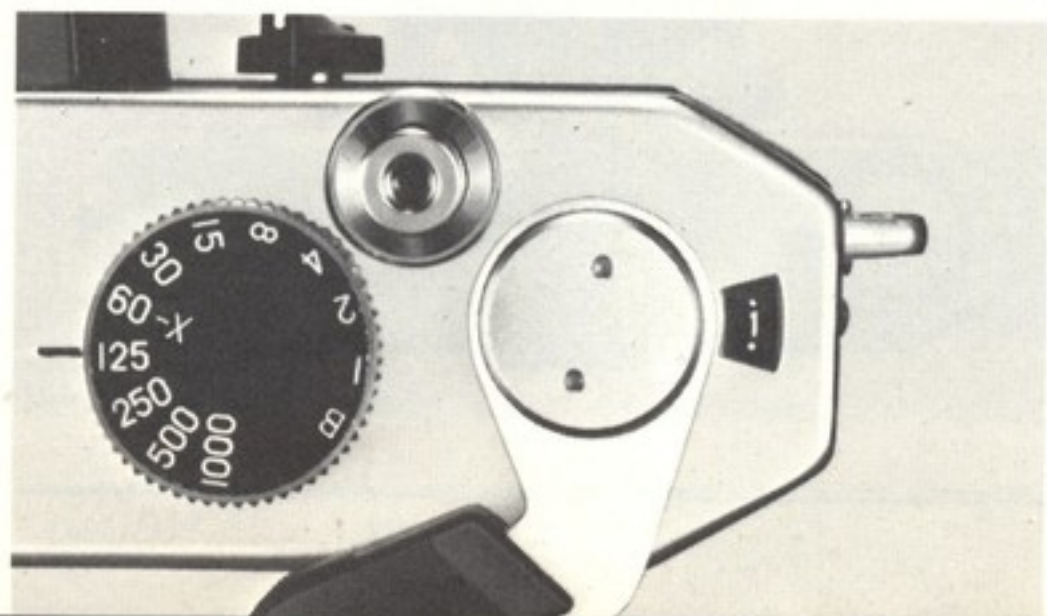


フィルムを入れるときは直射日光をさけてください

4 フィルム巻上げレバーを巻上げます。
フィルムのパーフォレーション（フィルム送り穴）が、スプロケット（送り歯車）に正しくかみ合っているのを確認してから裏蓋を閉めてください。
裏蓋を強く押すと完全にロックされます。



5 フィルム巻戻しノブを、矢印方向へ止まるところまで、静かに回してパトローネ内のフィルムのたるみをなくしておきます。

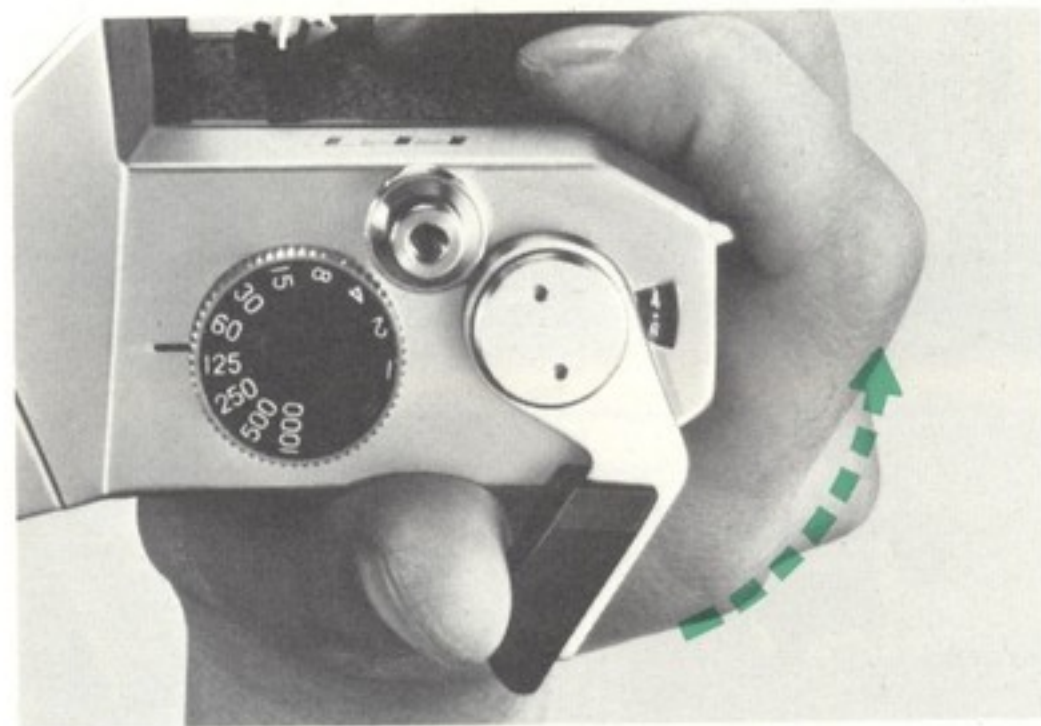


6 フィルムカウンターが“1”になるまで空写しをしてください。“1”がでたら撮影を始めてください。

巻上げレバーの使い方

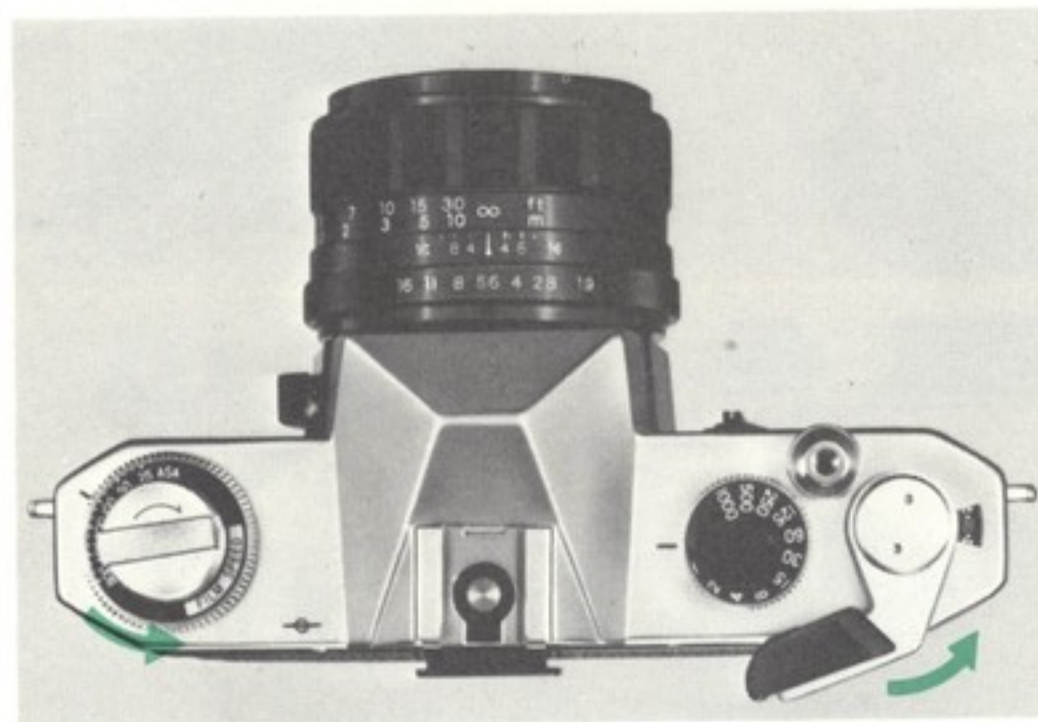
フィルム巻上げレバーは、一度に巻上げても、あるいは数回に分けて止まるところまで小ぎさみに巻上げてもよいのです。

巻上げレバーを止まるところまで回すと、フィルムがコマ巻上げられ、撮影枚数目盛が自動的に一目盛送られます。巻上げレバーは、必ず止まるまで巻上げてください。

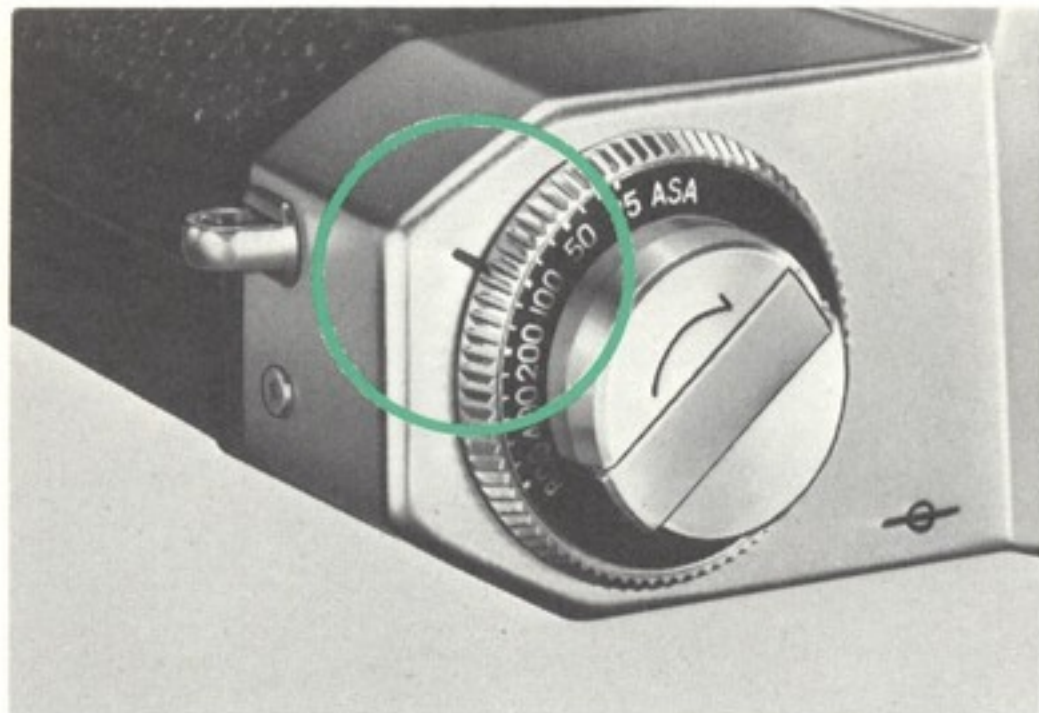


〈撮影途中でのフィルム送り確認〉

- ◎巻上げレバーを巻いたとき、巻戻しノブが回ればフィルムは正しく送られています。
- ◎巻上げが完全でないと、シャッターボタンを押してもシャッターが作動しません。その場合には、もう一度巻上げを確かめてください。



ASA感度の合わせ方



フィルムを入れ終ったら、必ず使用するフィルムのASA感度を合わせます。

ASA感度リングを回して、使用フィルムのASA感度数を指標に合わせます。これは適正露出を得るための数値ですから正しく合わせてください。

使用フィルムのASA感度数は、必ず指標と一致する位置に合わせてください。

〈ASA感度とは〉

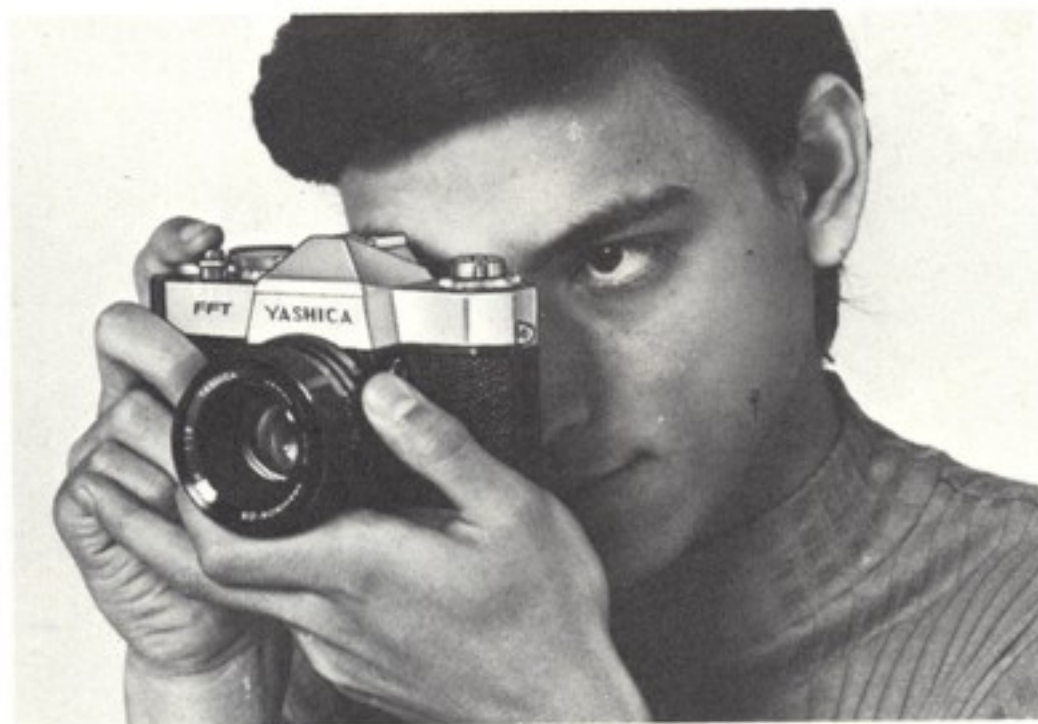
フィルムが光に感じる度合いを数字であらわしたものがASA感度で、フィルムの外箱か説明書に必ず表示されています。(DINも同じ)

〈ASA・DIN換算表〉

ASA	25	32	40	50	64	80	100	125	160	200	250	320	400	500	640	800
DIN	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30

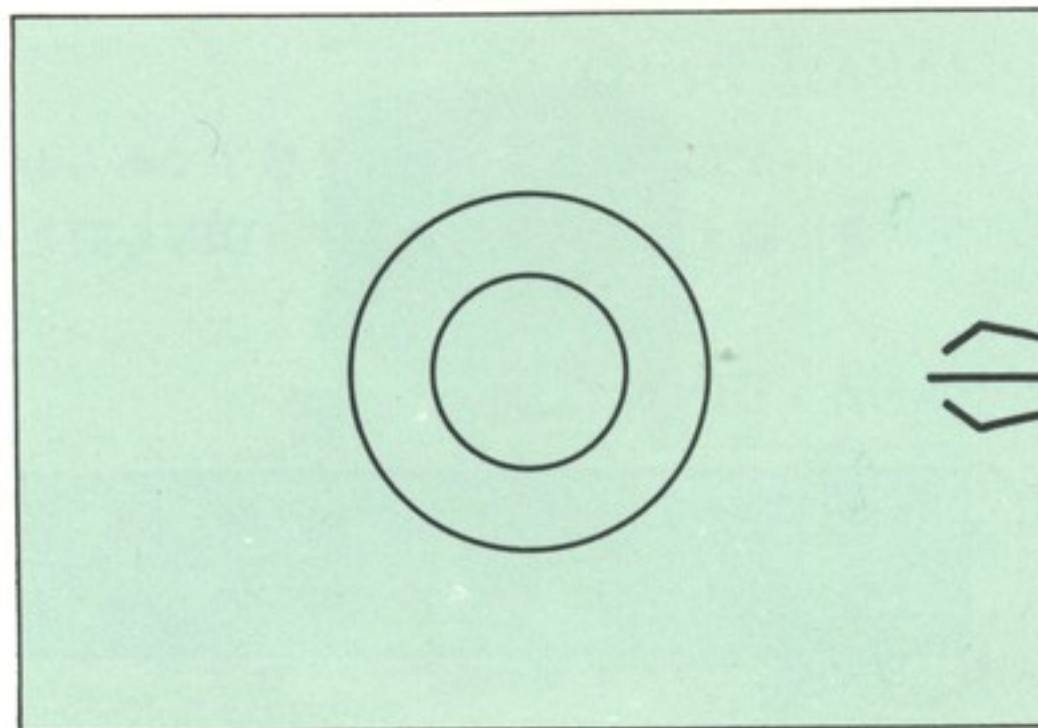
ファインダー

ファインダーは、一眼レフ式ですからのぞいたままの像がそのまま写ります。パララックス（視差）の心配はありません。したがって、レンズ交換してもいつも正しい構図を見て撮影ができます。



ファインダーは、いつも明るく見やすく（絞り開放の状態）なっていますが、露出チェックレバーを押し上げると絞りは絞り込まれ、ファインダーは暗くなります。ピント合わせは、露出を計り、露出チェックレバーを解除してから行なってください。

露出チェックレバーは、シャッターを切ることによって解除の状態に自動的に戻ります。



ピントの合わせ方



ファインダーをのぞきながら距離リングを回して、ピントグラスに写そうとするものの像がはっきり見えるところがピントが合ったところです。ですから、ボケているときはピントの合っていないときです。

特に、マイクロスプリットの部分では、像のボケが誇張されるため、ピントはいっそう合わせやすくなります。

各種の交換レンズやクローズアップレンズなどを使ってもピントの合わせ方は同じです。

露出の決め方

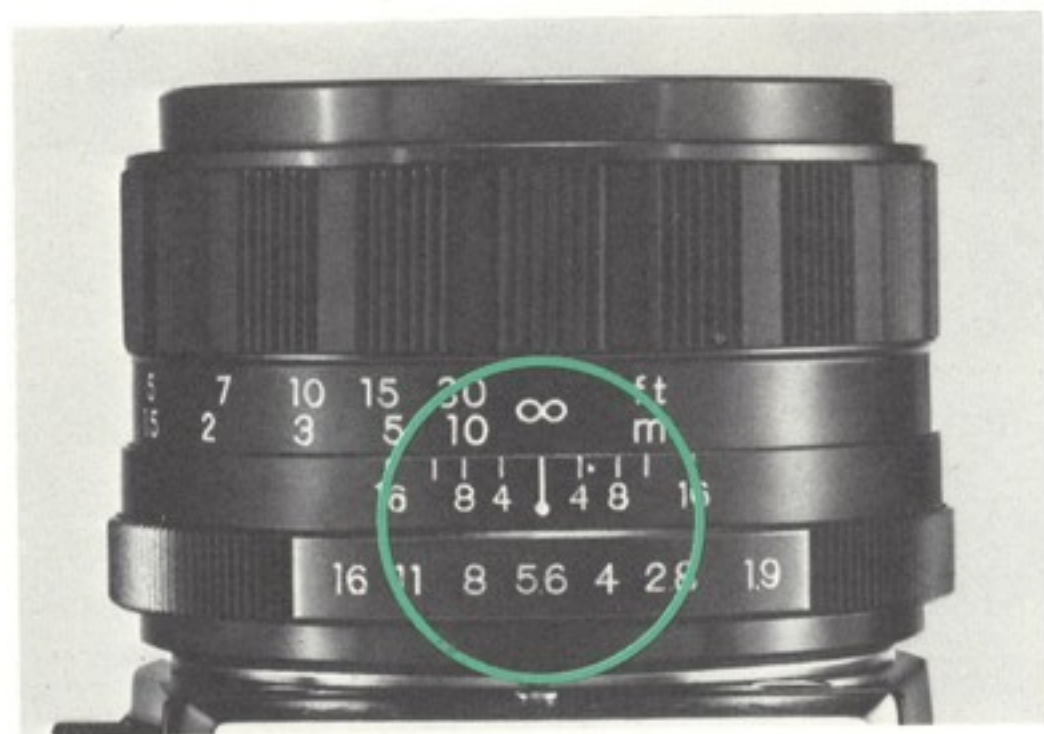
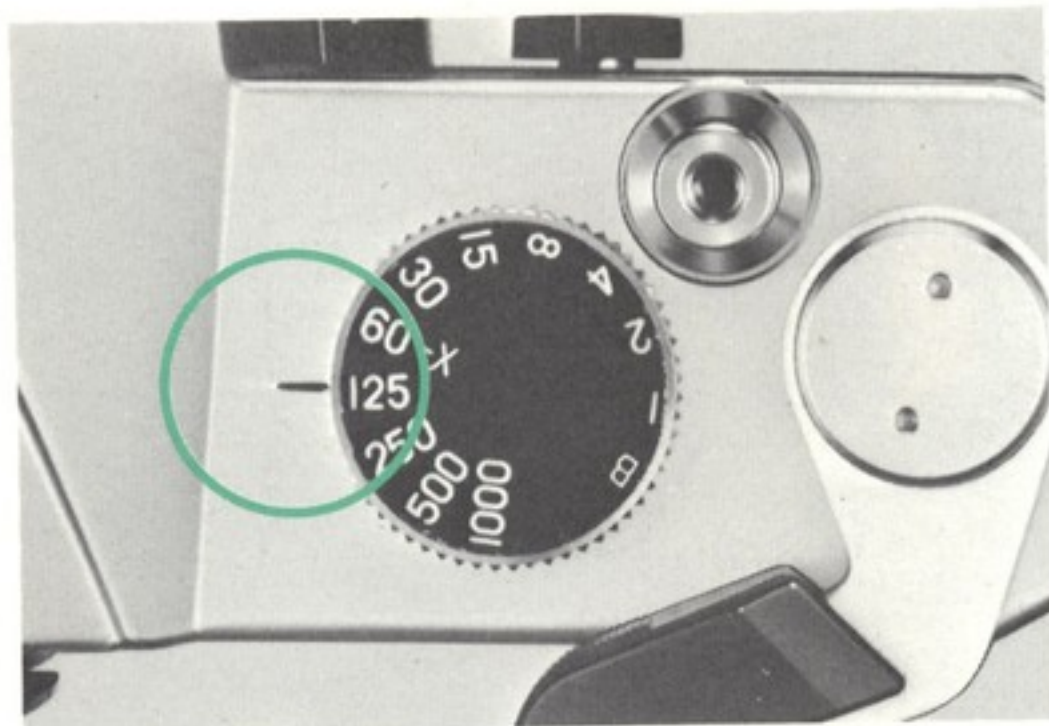
1 適正露出を決めるときは、フィルム面に達する光の量をシャッター速度で調節する方法と絞りで調節する方法があります。この両方の組み合わせで適正露出を決めるわけです。

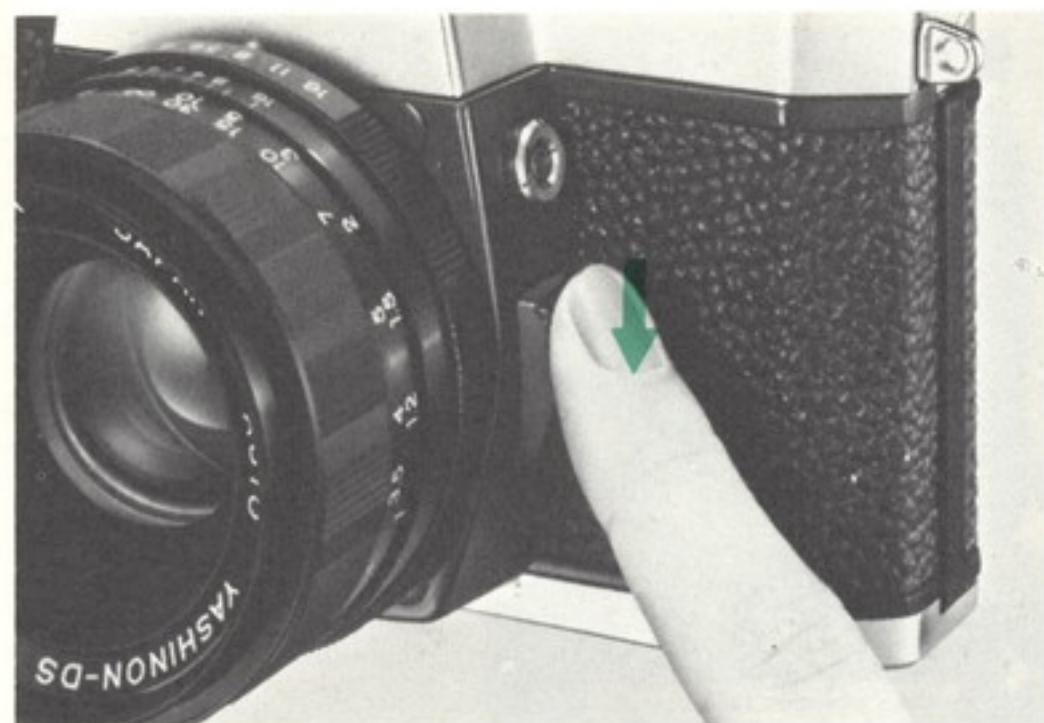
●シャッター速度優先の決めかた

被写体の明るさや動きの速さ、手ブレ防止など、それぞれの撮影条件や目的に合ったシャッター速度を先にセットします。シャッター速度ダイヤルを回して、シャッター速度を指標に合わせます。(次頁参照)

●絞り優先の決めかた

被写体の明るさや深度など、それぞれの撮影条件や目的に合った絞りを先にセットします。絞りリングを回して絞り数を指標に合わせます。(次頁参照)





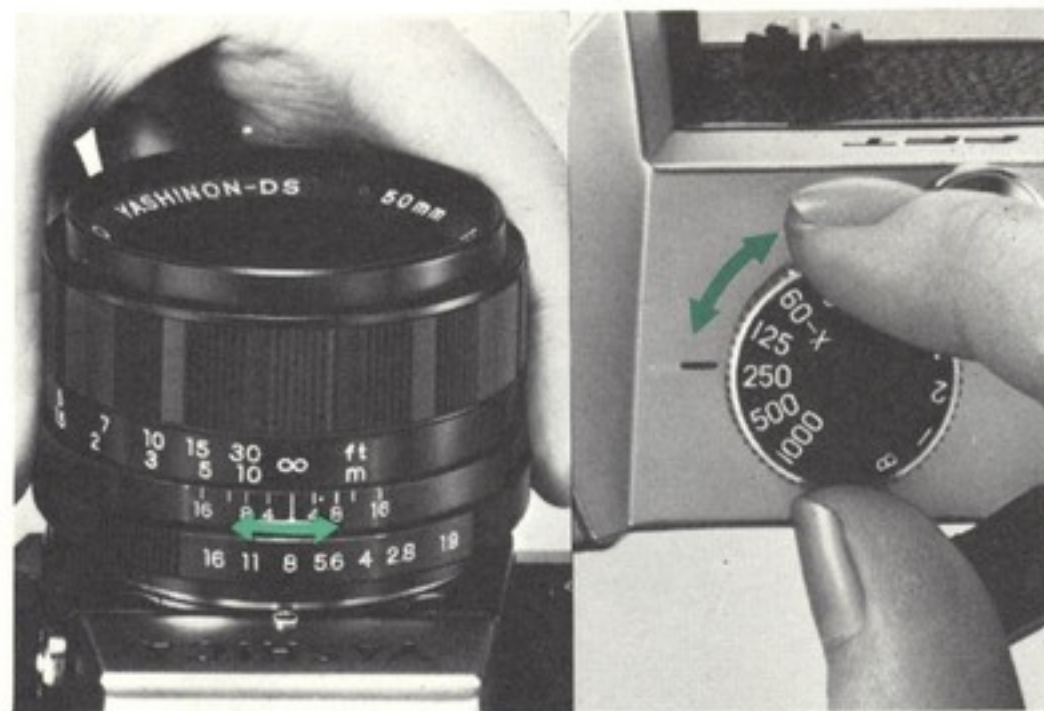
2 露出チェックレバーを押しさげると、カチッと音がして電源スイッチが入り、その位置で止まります。レンズが絞られ、同時にファインダーの指針が動きます。

〈露出合わせの目安として、下表を参考にしてください〉

撮 影 条 件 (ASA100フィルム使用)	シャッター速度優先	絞 り 優 先
直射日光下の屋外撮影の場合	$1/1000 \cdot 1/500 \cdot 1/250$ 秒	16 · 11 · 8
曇天・または日蔭の場合	$1/250 \cdot 1/125 \cdot 1/60$ 秒	5.6 · 4 · 2.8
室内撮影、または夜の場合	$1/30$ 秒以下	1.9 · 1.7 · 1.4 · 1.2

※動きの早いもの(スポーツ・自動車など)を写すときは、 $1/1000 \cdot 1/500 \cdot 1/250$ 秒のシャッター速度を使用してください。

3 絞りリング、またはシャッター速度ダイヤルを回しながら、ファインダー内の指針が中央に合うように調節します。



<指針が中央部に合えば適正露出です>

そのままシャッターボタンを押せば撮影ができます。指針が中央に合えば露出OKですが、露出チェックレバーを解除すれば（押上げる）、ファインダーが明るい状態で撮影ができます。





〈指針が中央に合わないとき〉

被写体の明るさに対して適当でないシャッター速度と絞りをセットしたためです。もう一度、適当なシャッター速度か絞りを選んでセットしなおしてください。

それでも指針が中央部に入らないときは、被写体が極端に明るすぎたり、または暗すぎることを示します。

◎明るすぎるときは、NDフィルターをかけて撮影してください。（NDフィルターは、光量を制限するフィルターです。）

◎暗すぎるときは、フラッシュ撮影に切替えて撮影してください。（21頁参照）



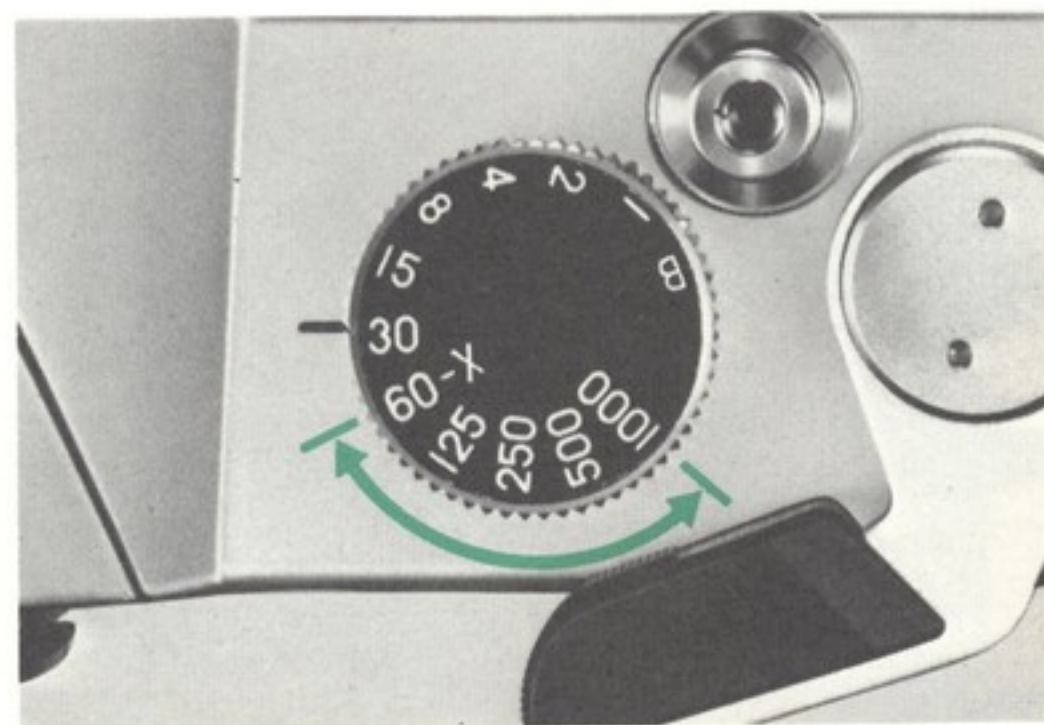
〈指針が動かないとき〉

明るい方へ向けて指針が動かないときは、水銀電池を入れ忘れたか、⊕と⊖を間違っ入れてあるか、電池が消耗してしまったかです。新しい電池を正しく入れなおしてください。

〈シャッター速度について〉

シャッター速度は、 $\frac{1}{1000}$ 秒～1秒まで使用できますが、 $\frac{1}{1000}$ ～ $\frac{1}{60}$ 秒の間は無段階に切れます。したがって目盛の中間も使えます。

ただし、 $\frac{1}{30}$ ～1秒の間は段階式に切れますので、シャッター速度は、指標に合わせて撮影してください。



適正露出

指針が中央部に合えば適正露出ということができますが、シャッター速度と絞りの組合わせの範囲は広く、いくつかの組合わせができます。撮影するときは、撮影目的と被写体に適した露出かどうか確かめてみる必要があります。

〈撮影の基本〉 光源を背にして撮影するのを順光撮影といいます。写すものに光が平均にしてあたり、色のバランスもよい美しい写真が撮れます。

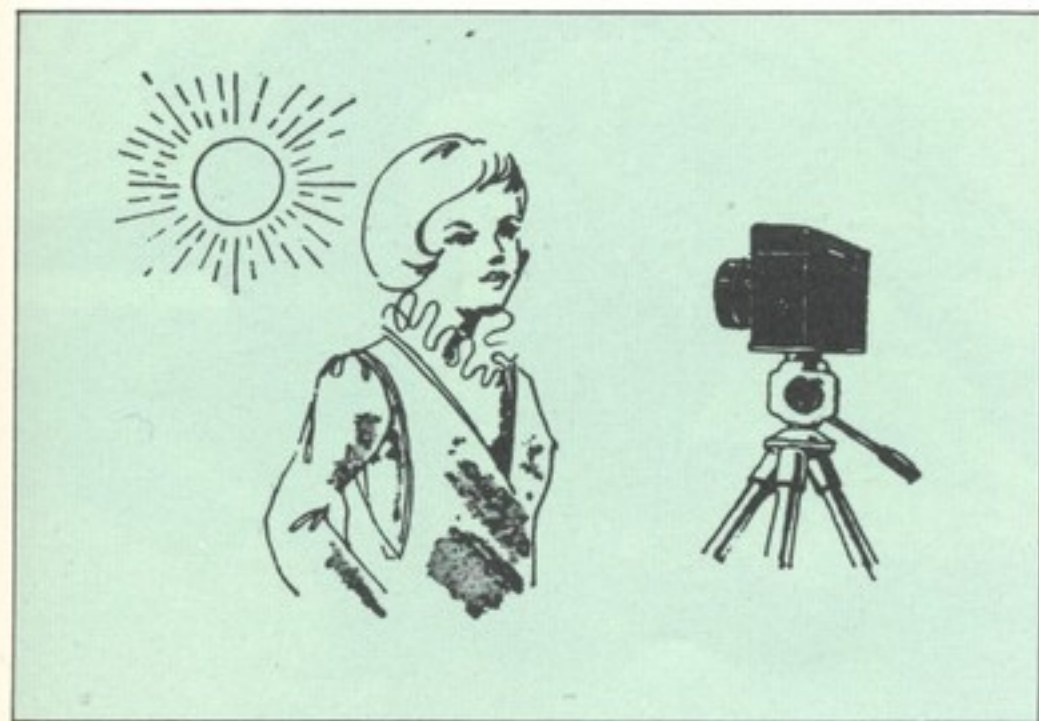
特殊な撮影条件での露出決定



逆光撮影、窓ぎわの人物、雪景色の人物などのようにバックが明るすぎるときは、普通に測った露出では人物などの被写体が暗くなりがちです。

このようなときは、測光のときだけカメラを被写体に近づいてバックの光が入らぬように露出を計り、そのまま元の位置に戻って撮影するとよい結果が得られます。

また、被写体に近づけないときは、普通撮影のときの約2倍の露出をかけてください。2倍の露出をかけるということは、普通に測ったときがF16・ $\frac{1}{250}$ 秒のときは、絞りをF11にするか、絞りをそのままF16にしておいて、シャッター速度を $\frac{1}{60}$ 秒にかえて撮影してください。

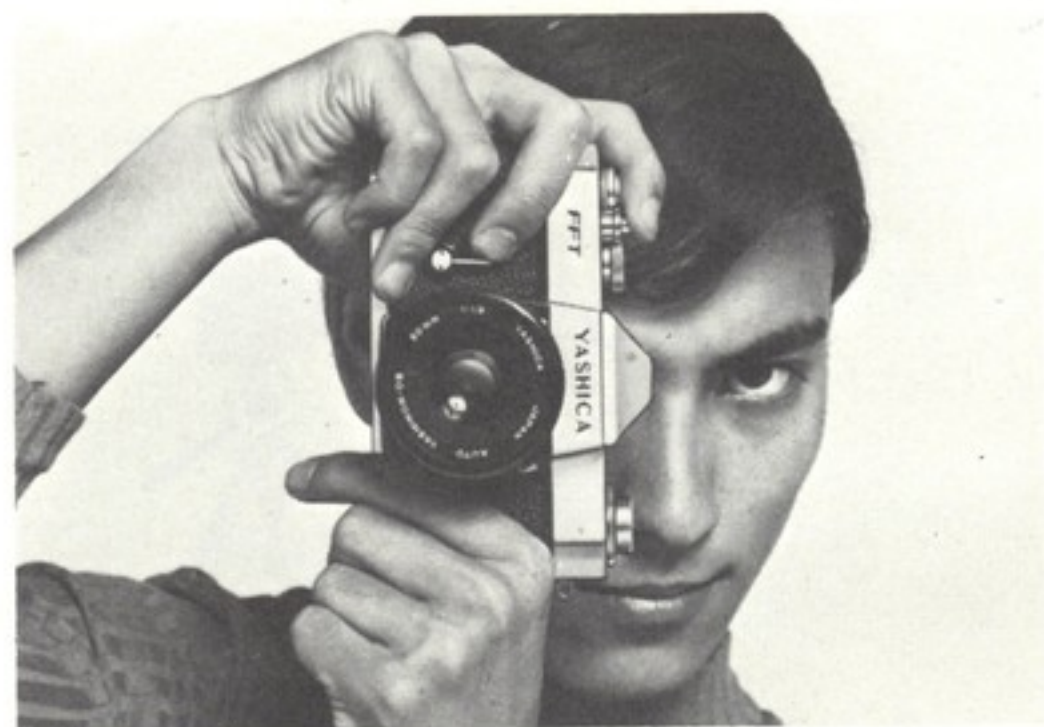
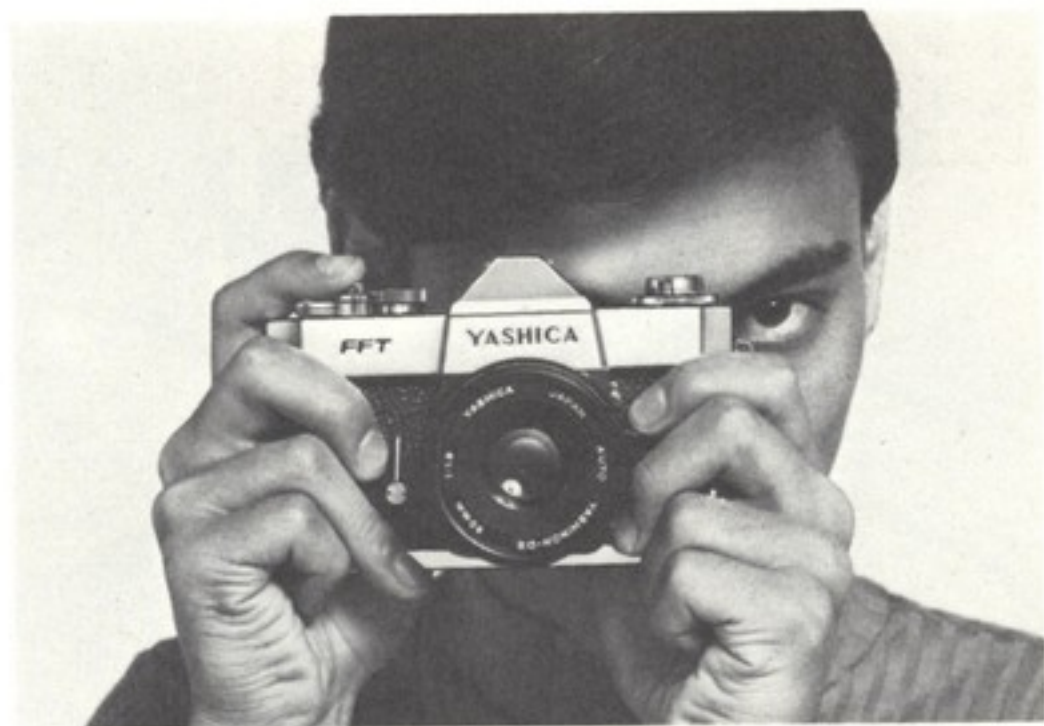


カメラの構え方

美しい写真を撮るためには、カメラをしっかり構えなければなりません。ピントの悪い写真の多くは、カメラブレが原因です。カメラに慣れるまで何回も練習してみてください。

カメラを左手でしっかりと構え、右手にはあまり力を入れず、シャッターボタンは指を立てずに指の腹で静かに押しさげてください。

1. 構え方は、写真上のような一般的な横位置または撮ろうとするものの状況、意図により縦位置で撮影します。
2. シャッターを切るときには、指やケースがレンズにかからないように注意してください。
3. 撮る場所により、建物や立木を利用してカメラを支えることもよい方法です。



フィルムの取り出し方

写し終ったフィルムは、必ずカメラの中でパトローネに巻戻してから取り出してください。

1 フィルムカウンターがフィルムの指定の枚数になったら、フィルムが終りになったのです。これ以上、無理に巻上げるとフィルムが切れて巻戻しができなくなります。

2 底部の巻戻しボタンを押してください。ボタンは自動方式ですから、巻戻中押している必要はありません。

3 巻戻しノブのクランクを起して、矢印方向に回します。フィルムがスプールからはずれるとき抵抗を感じますが、そのまま巻きつづけてください。抵抗がなくなってから、裏蓋をあけてフィルムをカメラから取り出します。

撮影中にフィルムが巻けなくなったときは、必ず巻戻しボタンを押して巻戻してください。無理に巻上げるとフィルムが切れます。

フラッシュ撮影〈準備〉

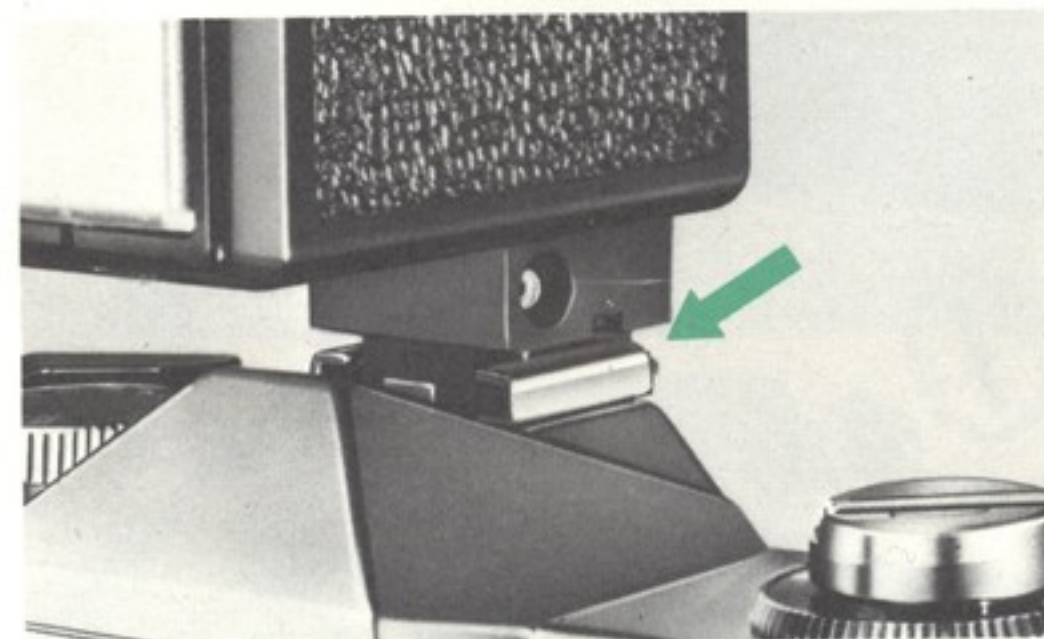
- 1** アクセサリーシューのシューカバーをはずします。

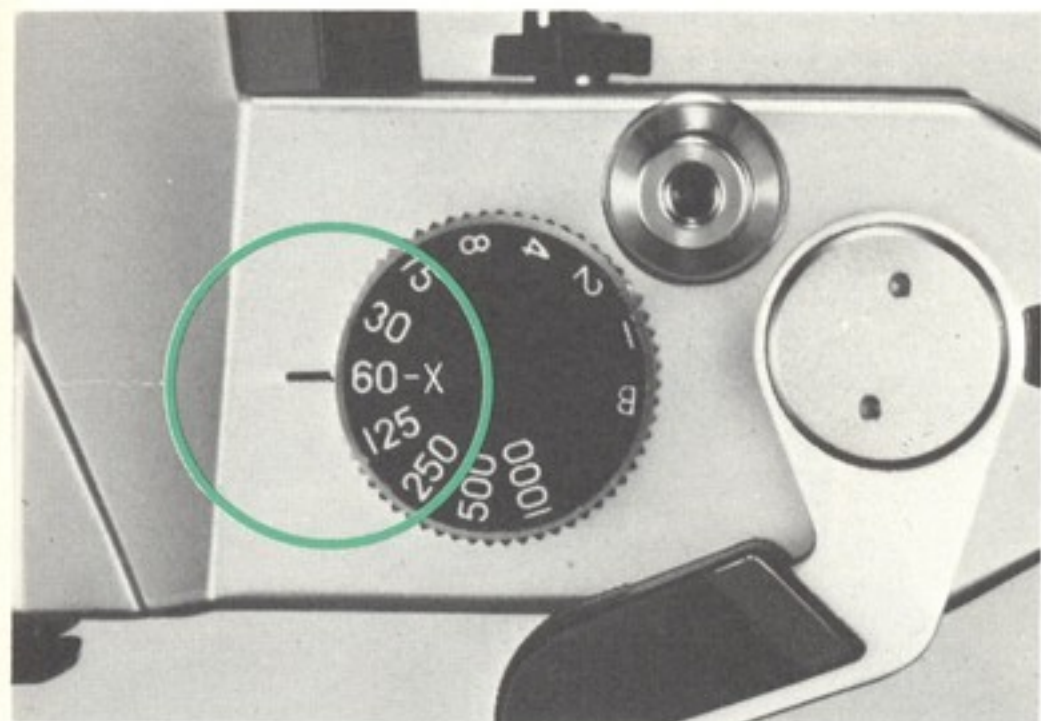
アクセサリーシューに取り付かないストロボ、フラッシュガンを使用するときは、必ず付属のシューカバー（感電防止用）をシューに差し込んで使用してください。

- 2** ストロボ・フラッシュガンをアクセサリーシューに差し込みます。

- 3** カメラのシンクローターミナルに、ストロボ、フラッシュガンのコードを差し込みます。
(コードレスのものは、この操作は必要ありません)

シンクローターミナルは1個ですが、使用するストロボ・フラッシュバルブによりFP・X接点が自動的に切替ります。





4 ストロボやフラッシュバルブに同調するシャッター速度を合わせます。

同調するシャッター速度は下表の通りです。

シャッターダイヤルにある“60-X”の印は、ストロボに同調するシャッター速度の限界を示すものです。これより遅いシャッター速度（ $\frac{1}{60}$ -X～1秒）ならストロボに同調するわけです。

● 同調するシャッター速度は下表の通りです。（○印が同調）

シャッター速度	$\frac{1}{1000}$	$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$ -X	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	1
ストロボ使用					○	○	○	○	○	○	○
FPフラッシュバルブ使用	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○

フラッシュ撮影〈撮影の手順〉

- 1 ピントを合わせます。
- 2 そのときの距離目盛（距離リング）を見て、写すものの距離を読み取ります。
- 3 距離に合った正しい絞りを決めて、絞りリングをセットします。



〈正しい絞りの決め方〉

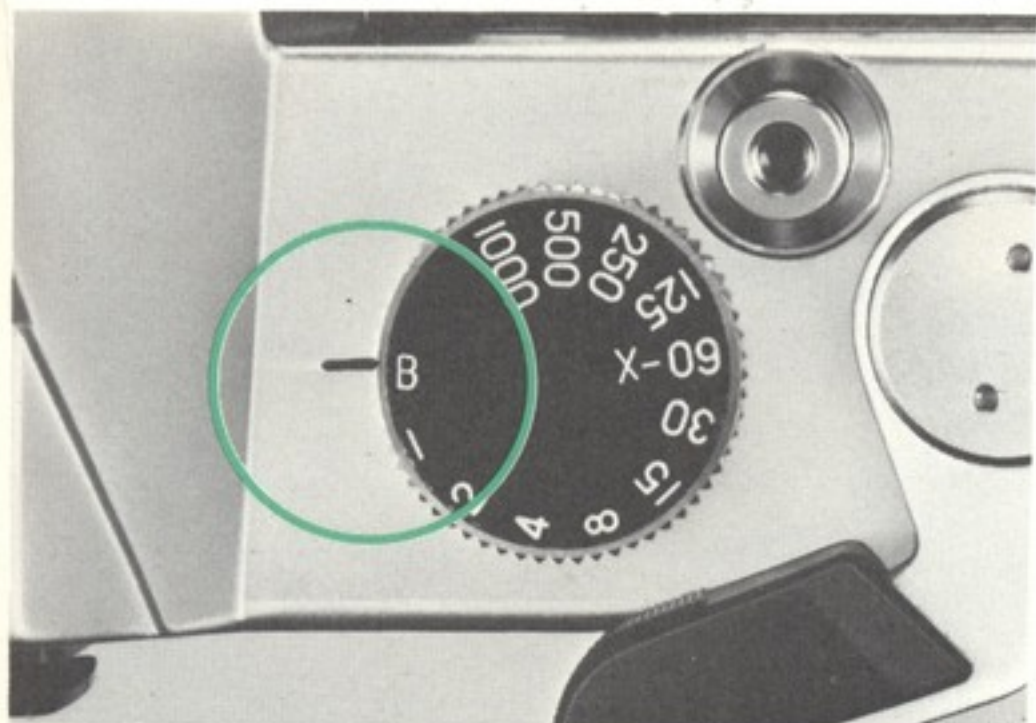
フラッシュ撮影の露出は、ストロボ、フラッシュバルブのガイドナンバーによって決めます。ガイドナンバーはストロボ、またはバルブの説明書に必ず表示されています。このガイドナンバーを撮影距離（メートル、またはフィート）で割ったものがそのときの適正な絞りになります。

〔例〕ヤシカMS-20DXストロボ（ガイドナンバー20メートル・ASA100のとき）を使用したとき

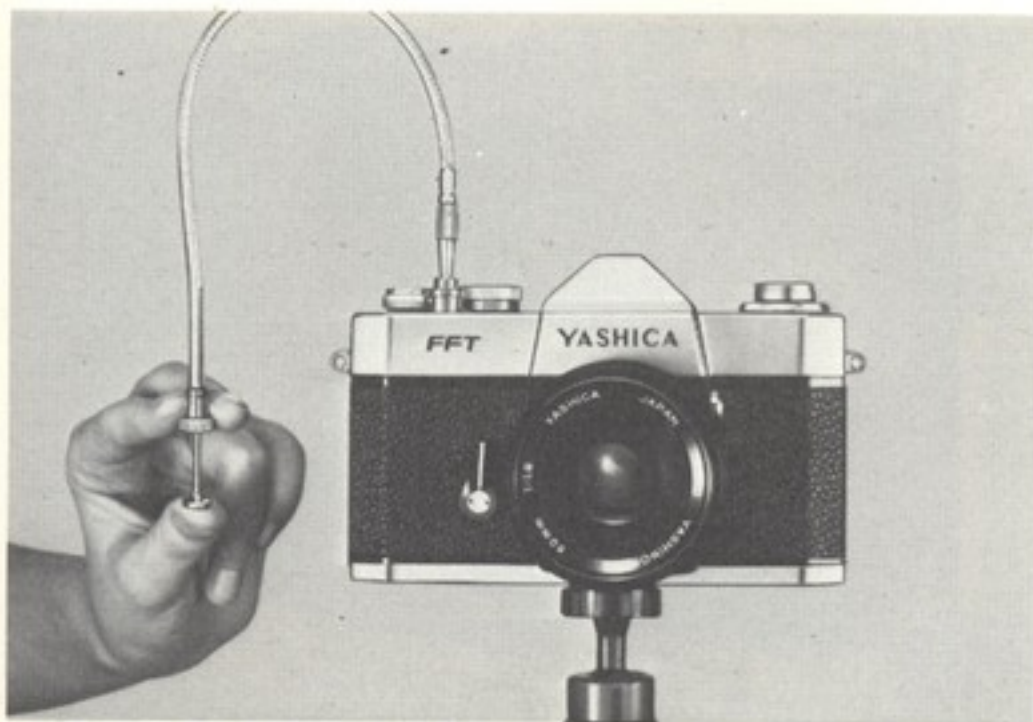
$$\frac{\text{ガイドナンバー (20)}}{\text{被写体までの距離 (5 m)}} = \text{求める絞り (F 4)}$$

ガイドナンバーがメートル単位で表示されているときは、メートル（撮影距離）の数で割ってください。

バルブ(B)撮影



シャッター速度ダイヤルをB（バルブ）にセットすると、シャッターボタンを押している間だけシャッターが開いています。暗いところでの長時間撮影、天体や花火撮影などに利用できます。



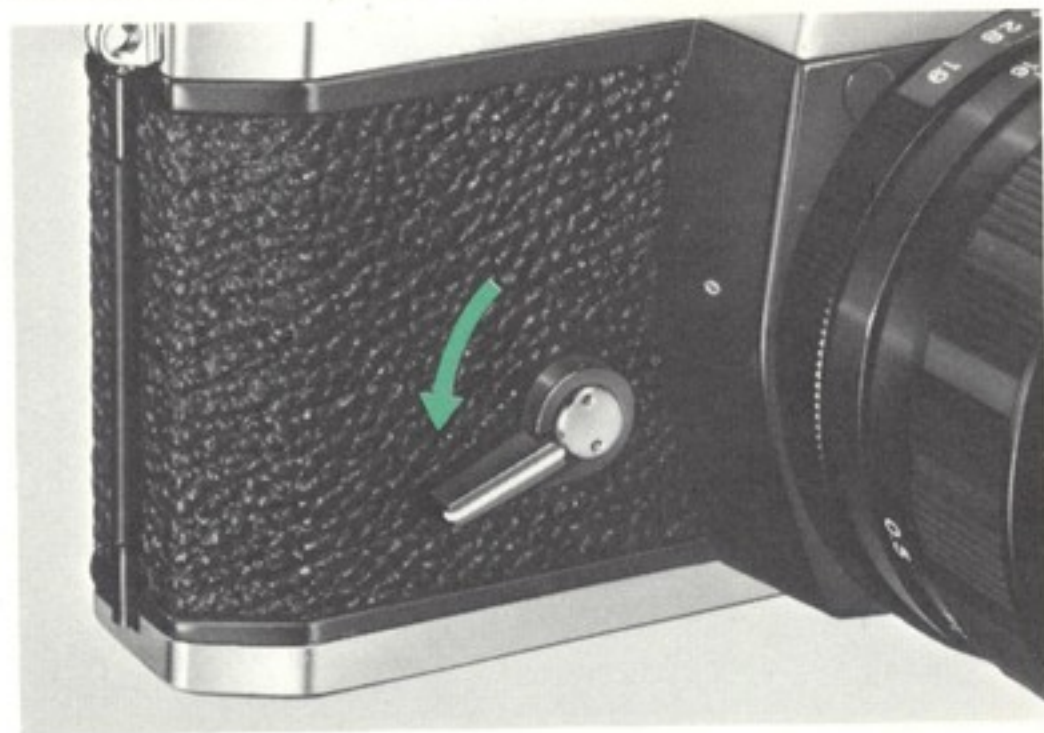
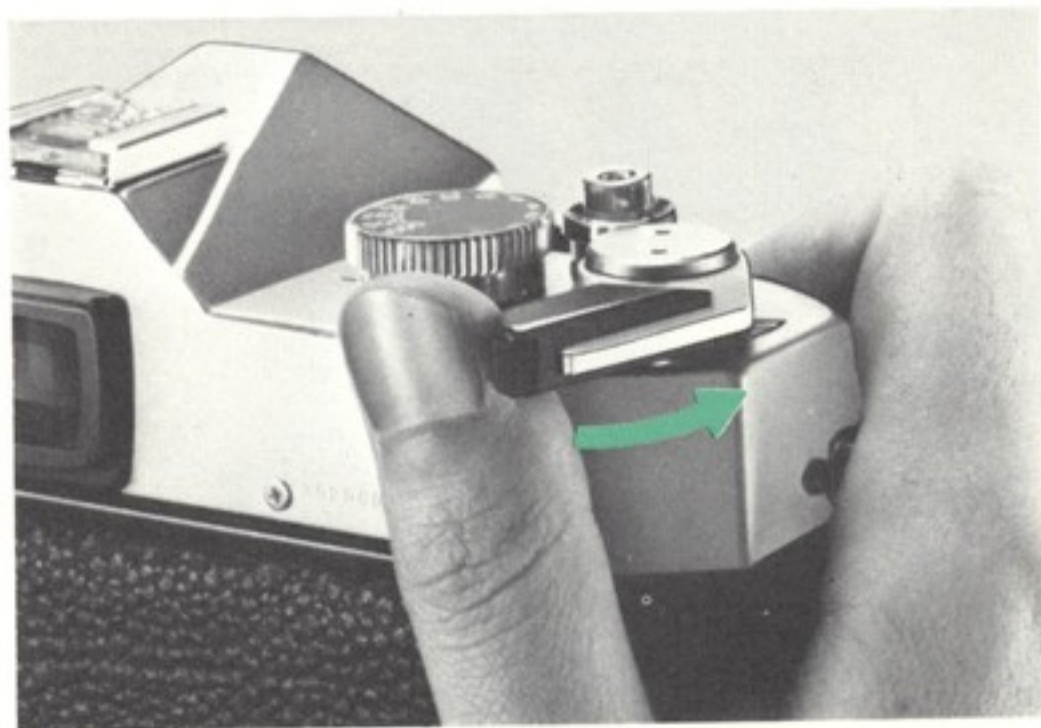
バルブ撮影や手持ち撮影が不可能のときは、カメラを三脚に固定するか、適当な台の上においてケーブルリリースを使用してください。

カメラブレを防ぎ、シャープな映像が得られます。

セルフタイマーの使い方

記念撮影や自分も一緒に写したいときは、セルフタイマーをお使いください。

- 1** 露出とピントを合わせたあと、フィルム巻上げレバーを巻上げます。
- 2** ボディ前部にあるセルフタイマーレバーを止まるまで押し下げます。
- 3** シャッターボタンを押します。レバーが作動し約10秒後にシャッターが切れます。



赤外線補正マークとフィルム面標示マーク

〈赤外線フィルムで赤外撮影をするとき〉

1 赤フィルターを取りつけます。

2 ピントを合わせ、そのときの距離目盛を赤外線補正マーク（赤点）にずらせます。これで赤外撮影での正しいピントが得られます。

赤外線補正マークは、レンズ鏡胴の距離合わせ指標の横にある赤点です。

〈フィルム面標示マーク〉

カメラ上部にある赤い \ominus 印は、フィルム面の位置を示すものです。カメラから被写体までの距離は厳密に言えばレンズからでなく、フィルム面からの距離をいいます。このマーク（ \ominus ）は、接写撮影のときなどに使います。



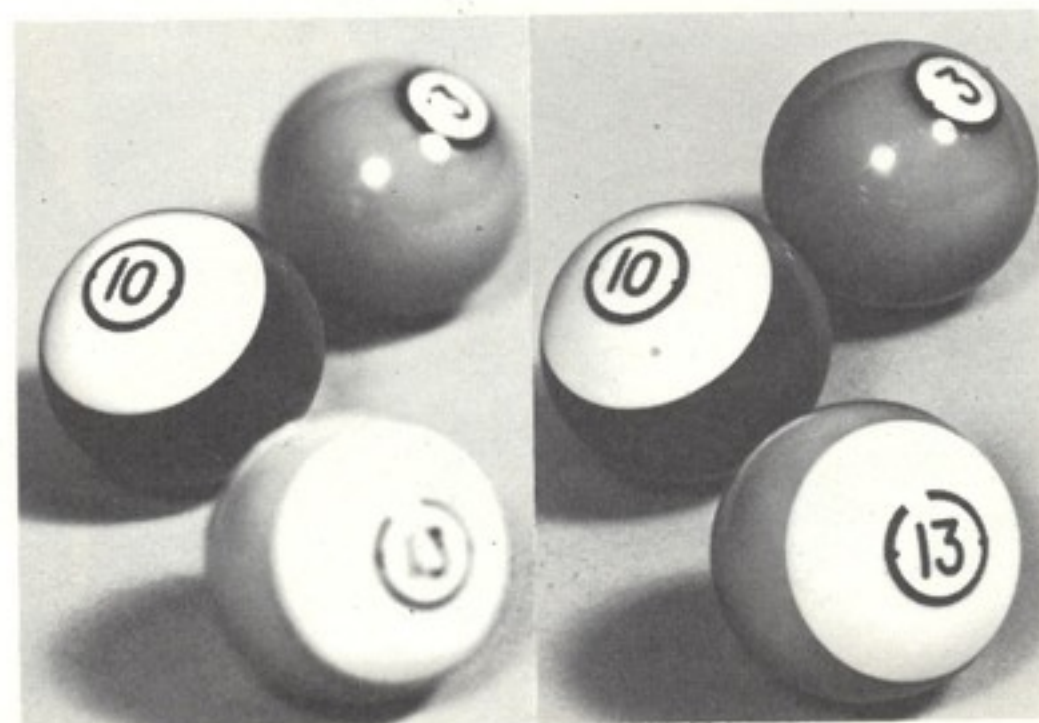
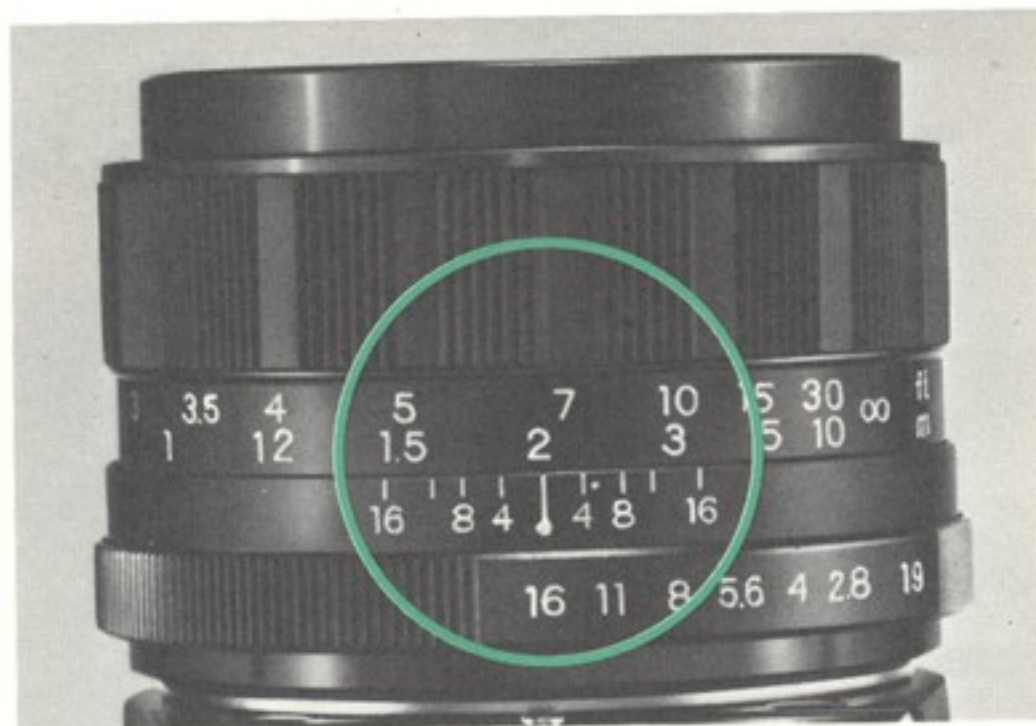
被写界深度とは

ある被写体にピントを合わせたとき、被写体が鮮明に写るだけでなく、その前後にも鮮明に写る範囲があります。これを被写界深度といいます。

作例写真は、真中にピントを合わせていますが、F1.9の開放状態ではボケている前後が、F16に絞ると非常にシャープになります。このように深く絞るほど鮮明に写る範囲が大きくなります。

- 被写界深度は、レンズ鏡胴の被写界深度目盛で読みとることができます。

例えば、2メートルの距離にピントを合わせ、絞りF16なら、両側の16の数字に対応する距離、約1.5メートルから約3メートルまでピントが合うことが分ります。



F1.9

F16

レンズ交換のしかた



レンズの取り付け、取りはずしは、レンズを回すだけで交換ができます。

カメラにフィルムが入っているときは、直射日光が当たらないところでレンズを交換してください。

〈電池の取扱上の注意〉

- 電池の両極を汗や油などでよごしたりしますと接触不良の原因となりますので、乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- 長時間カメラを使用しないときは、電池をカメラから取りだしてください。
- 長期間の旅行などでは、予備の電池を準備しましょう。
- 使用済の電池を火中に捨てたり、分解したりするのは危険ですから十分注意してください。

性能表

レンズ	オートヤシノン標準レンズ付 完全自動絞り レンズ交換可能 スクリューマウント (プラスチックマウントと同じ)
シャッター	フォーカルプレキシッター B・1秒～ $\frac{1}{1000}$ 秒等間隔式 ($\frac{1}{60}$ 秒～ $\frac{1}{1000}$ 秒間は無段階変速可能) セルフタイマー内蔵 シンクロFP・X接点自動切替式 ダイレクトシュー付 (X・FPどちらも可)
測光方式	CdS・TTL絞り込み測光 (絞り優先・シャッター速度優先可能) 露出チェックレバー付 ファインダー内定点合わせ ASA目盛25～800 露出連動範囲EV 2.85～18 (F1.9付・ASA100) 使用電源 水銀電池H-C1.3V 1個使用
ファインダー	一眼レフペンタ方式 (倍率 ∞ のとき0.9倍) クイックリターンミラー機構
ピント合わせ	マイクロスプリット方式 直進ヘリコイド
フィルム送り	レバー式 (160度) セルフコッキング 分割巻上げ可能 (予備作動角6度) イージーロード方式 フィルムカウンター 自動復元式 クランク式フィルム巻戻し
その他	裏蓋開閉式 深度目盛・赤外線指標付
寸法・重量	144.5×94×94mm 885g (F1.9付)

カメラ使用上の注意

水銀電池のお取替は、使用済の電池と交換
でお願い致します。

カメラに使用している水銀電池は、完全シールを
していますので、カメラをご使用中に電池の中身が外
にでることはありませんが、身近な水銀汚染をなく
すために、新しい水銀電池をお求めのときは、必ず
使用済の水銀電池を持参し、カメラ店、または電気
店にて現品と引換えでお求めください。

〈オートヤシノン標準レンズ〉

レンズ名	構成枚数	最小絞り	最短目盛	フィルター口径 (ネジ込み式)	フード口径 (カブセ式)
55mm F1.2	6群7枚	F16	0.5m	55mm	57mm
50mm F1.4	"	"	"	"	"
50mm F1.7	5群6枚	"	"	52mm	54mm
50mm F1.9	4群6枚	"	"	"	"

※交換レンズ・アクセサリは別冊をみてください。

- カメラは暑い場所（夏の浜辺、直射日光下の停車
した自動車の車内・トランクなど）にながく放置
しますと、熱のためフィルムの感度、電池、カメ
ラの電気系統に影響を及ぼし、正しい露出が得ら
れないことがあります。暑い場所にながく放置し
ないよう注意してください。万一カメラが熱くな
ったときは、気温程度にさげるのを待ってから使
用してください。
- カメラの狂う原因に、ショック、湿気、塩分など
があります。乱暴に扱わないように手入れを充分
にして末長くご愛用ください。
- レンズの表面やミラーは、ハンカチなどでふかず、
レンズブラシでかるくはらってください。
- アクセサリシューにストロボ・フラッシュガン
をつけないときは、必ずシューカバー（感電防止
用）をシューに差し込んで使用してください。

●ヤシカカメラに関するご質問及び修理については、下記へお問い合わせ下さい。

Ⓨ 株式会社 ヤシカ	東京都渋谷区神宮前 6-27-8	〒150	TEL. 03-400-1411 代表
岡谷工場	長野県岡谷市長地 2800	〒394	TEL. 02662-7-2131 代表
相模原工場	神奈川県相模原市上鶴間 3648	〒228	TEL. 0427-43-2211 代表

ヤシカ商事株式会社 サービスステーション

東京営業所	東京都渋谷区神宮前 6-27-8	〒150	TEL. 03-400-1411 代表
大阪営業所	大阪市西区北堀江通 1-46 山田ビル	〒550	TEL. 06-532-2251
名古屋営業所	名古屋市中区錦 3-12-10	〒460	TEL. 052-961-0656
福岡営業所	福岡市博多区中呉服町 2番7号 博多村山ビル	〒812	TEL. 092-28-5749
札幌営業所	札幌市中央区北四条西 5-1 林業会館ビル	〒060	TEL. 011-241-5866
仙台営業所	仙台市大町 2-14-23 橘ビル	〒980	TEL. 0222-22-7528
広島営業所	広島市大手町 3-5-3 野村ビル	〒730	TEL. 0822-43-7437
横浜営業所	横浜市中区万代町 1-2-3 座間ビル	〒232	TEL. 045-641-3333
新潟出張所	新潟市蒲原町 3-28 明石ショッピングセンター内	〒950	TEL. 0252-44-3866
金沢出張所	金沢市春日町 8-12 永原ビル	〒920	TEL. 0762-52-5777
高松出張所	高松市末広町 1-2	〒760	TEL. 0878-51-2495
岡山出張所	岡山市富田町 2-9-16	〒700	TEL. 0862-22-8204
大宮出張所	大宮市東町 2-291 グリーンマンション	〒330	TEL. 0486-43-0566
静岡出張所	静岡市駿河町 5-6 寿ビル	〒420	TEL. 0542-53-7822